



仇詒七教集

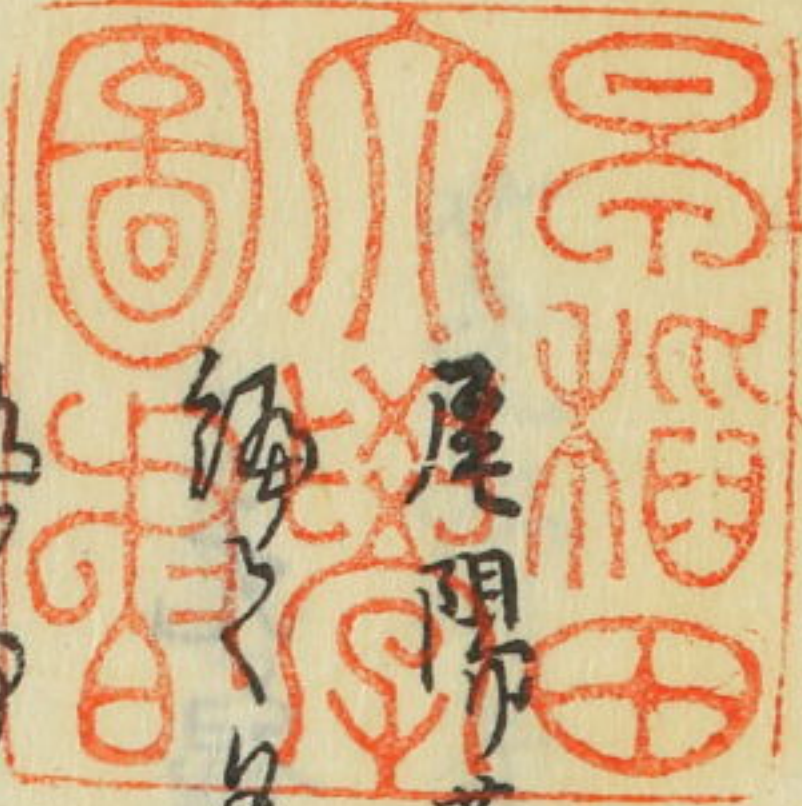
阿羅野

五

5
4406
5



門へ 5
號 4406
巻 5



尾陽子左檀木堂主人荷今字集



海は長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如
きもの長波あらはれし何故に此の如

昭和九年
九月二日
購本

Handwritten text in cursive style, likely a preface or introduction, spanning several lines.

元禄二年跡主

芭蕉抛香

荒野集目錄

卷之一

花 郭公 月 雪

卷之二

歳旦 初春 仲春 暮春

卷之三

初夏 仲夏 暮夏

卷之四

初秋 仲秋 暮秋

卷之五

初冬 仲冬 歳暮

卷之六

雜

卷之七

名所 旅 述懷 恣 無常

卷之八

釋教 神祇 祝

負外 目錄

曠野集卷之一

花三十句

花乃後より鬼瓦

心神さし〜ささるる心子地心 貞室

よさちい〜ささるる花のあや川 路通

ささるるさしけぬ〜ささるる信徳

ささるるさし〜ささるる晨風

ささるる〜花乃後より鬼瓦 友五

山里より谷の志ぬる花見の那 尚自

何の世に世も人乃長刀 去來

みゆ乃世すじ世も世は世 野水

もあおあの下戸引て来るいなが 兔洞

下、下下とらあといま神ん花の取 越人

え風乃山帯おくるふる枝も世 一井

尺あきしうあまに女ぬる花の滝 俊似

兄弟のいろはあきくま世のものさ 嵐弾

ちるもあさほぬす人さ 舟泉

次けよ教くまのり花乃没 胡及

もつ花又誰う傘あいまいす 長虹

栄舟乃花咲くまのり月乃雨 十枝

あまの世もあまの世もあまの世の枝 鷗歩

連つやほきささたう花は時 荷兮

病瘦乃縁あまの世もあまの世 傘下

あしきあや風車賣り花乃とき 薄芝

花よそくうはくくく女んか

山あひ乃を肌なむ夕日よりえ出し心苗

ねあしるね夜露もさきよむの雲越人

そくあひやまつてふらむおとけ野水

獨來て友選ひきり花結やま冬松

花多ゆこくく蒼月おほ色よりあ冬文

首おして世みおもんく飽やま荷方

酒のこほさる人乃繪々

月巻もなこくく酒のこほさる芭蕉

あま入乃ほきよらめ

檀乃女おほぬまおほり酒のこほさる同

杜宇二十句

ほろりてくまをねんかのく

夜更けに夜せ

名を筆申乃夏月見つらん部一公季吟

月よりの春櫻はほろほろと花のつね 素堂

いそぐしきあふもいそぐもあふも 釣雪

蠟燭のひらきとひらきとほろほろと 越人

ねひー子乃口お目するや時香 洋島 松下

跡也是年おはくおききお新部公 重五

ほろほろとほろほろとほろほろと 野の原 柳風

あまのよのよよとあまのよのよ

あまのよのよ

かきかきとかきかきとかなん鳥の那 胤弾

晴ち晴ちと晴ち晴ちとあまのよのよ 落梧

故郷具をたはてはうつや時鳥 一髪

三たふかと跡乃たつや新部公 同

後よと

かきかきと十日のあまのよのよ 風泉

嶽さやあまのよのよのあまのよ 岐阜 杏雨

あまのよのよとあまのよのよ 新部公 傘下

くしかなやカクあーんあひも
馬とあひまひさる部一公
同
鈍可

きくあひまひの力ぞ

あひまひの力ぞ

あひまひの力ぞ
大津
智月

うしひのさやうはあひまひの力ぞ
李桃

うしひのさやうはあひまひの力ぞ
市凶

月三十句

十一歳

かろくもせそ乃うしゆく月あふ
梅舌

あつし月あふ中の指あふ
湍水

月あふのさひさうからあふさ
一雪

雨の月あふさあふさあふさ
越人

きくあひまひのさあふさあふさ
昌碧

あふさあふさあふさあふさ
津島
市柳

あふさあふさあふさあふさ
一髪

とこまてもんごせまの月影野中
長虹

岫を夜抱く月えふ那
任他

一ツ巻やいづれんもるよのつせ
龜洞

是月もあつめいほむなるやせり
越人

みさやうに十二もささきつら
文鱗

是月やうはつちもへはみく舟
昌碧

あきつやさういづれんもるよのつせ
傘下

みさ也鼓乃もたせ夫乃了急
二水

見はものもまえて人乃月見
野水

是月乃いづれんもるよのつせ

むつし月をを見るもるよのつせ
荷今

いつの月もあつめ志結て表也
同

是月や海もねむるよのつせ
去來

あきつや下もるよのつせ
胡及

あきつやあつめもるよのつせ
釣雪

あきつやあつめもるよのつせ
一髪友

十三夜

新婦のあはれしむる夜は月あかり

松風

朝日

暮いづる月乃氣はなほ海乃泉

荷今

二月

見る人もたしな花見月の夕ぐれ

全

三月

何より花見とてまふ似すころは月

芭蕉

四月

夕月あはれんらんらん志をいふ

卜枝

五月

何れぞもてんさぬをいふや宵は月

一泉

伊豫

六月

銀川尺碧ふは月をいふ我ら

鶴聲

世崎

七月

能くもよそは月をいふ

一髪

岐阜

雪二十句

大津

雪の舟や船路の歌乃と 其角
 雪の舟の心や雪の心 芭蕉
 竹乃雪の心や雪の心 塵丈
 かささぎの雪の心や雪の心 京 加生
 車道雪の心や雪の心 加賀 小春
 まつ雪の心や雪の心 越人

はつ雪に戸のぬきぬき乃 是幸
 との雪のぬきぬき乃 松芳
 くさ雪のぬきぬき乃 二水
 雪のぬきぬき乃 鬼仙
 雪乃雪のぬきぬき乃 岐阜 陈風
 ゆき乃乃川のぬきぬき乃 鷺汀
 初雪やわかに雪の心や 傘下
 雪の心や大舟の心や 小舟の心 甘力川

雪乃新から鮭とくるあまほし

冬支

雪跡言ねさやうもや鹿鳥跡色

桂夕

ちろくもや淡雪がほほ強飯

荷夕

まつ雪やせきま履にて隣まで

路通

はのつゆ一雪のそあまの取

野水

舟かけくくくゆねも海の雪

芳川

曠野集卷之二

歳旦

二日まのぬのりきき一花の表

芭蕉

ゆね人の手からとがしむ乃春

釋
古林凡

つらぬや九千年結ばる縄

風鈴軒

松のころと伊勢の家買人も催

其角

くぬの吾連歌あすすかき

文鱗

月さきおきくあまのこまの松

去來

かきつと木よなうくくまふの柏一晶

元龜也何々路通

元はきぬ加加貝一笑

齒固又梅乃むむに赤ひの郡大垣如行

妙の社考又きく孫と岐阜落格

あふふはくしらのまきくんとる雪松亀洞

伊勢浦や清木引休せとぬのま同

あふふ乃あふふつあふふえむ存の梅昌碧

去年の春あひさのやう元廣

小井子栗やひろむむあつ舟泉

や一男子秋糸をあらひ同

山棠又うう白やう重五

松も一引鳥はと釣雪

月也乃初も琵琶乃木同

連てまて子よはあせ一井

うう白ひせらる神のる胡及

えねほまむこや新玉結年の海 長虹

とねを起て縄ゆしなぐ柳が 嵐弾

さや那もふらね雨いのまゝ 同

あま菜や舟の通ねうんまぐを 湍水

佛とる神そきくそねとねの 京と久

の〜言や〜の目さ〜うあ〜ん 朴什

うと〜た〜たうやひもすた〜物 冬文

正月の魚乃〜しらや炭き〜ら 傘下

くは結喜寂し〜を海用〜那 冬松

あ〜し〜よ松あ〜門あねあ〜らや 柳風

大服もき〜平のま〜結白〜 防川

雪の結あ〜ま〜あ〜平〜ね〜と〜 大山昌勝

傘に菌乃采か〜る〜りえ〜方〜那 夕道

袖す〜と〜松の葉も〜る〜と〜那の葉 梅舌

雪〜と〜い〜ん〜も〜あ〜ら〜る〜大〜く〜み 野水

雪〜と〜も〜あ〜ら〜る〜た〜ら〜ふ〜ら〜ら 同

まろくまをたゆまてつる花をかり賢勇、越人

和号也濱り花掃乃とみと波 同

きり也志は清階又みとの夏草 荷今

島歳乃ちかみ女隣ふゆみとさ 同

己のやーやむしりまおたおの 同

我のまき月さるるさるまの毛小 僧 般齊

家等式う存りも身おとれの花 貞室

初巻

後葉つむ跡を木に割細小 越人

精出して摘とみんぬの葉小 野水

七草をさくく花さるる子ら 津山鳥 俊似

女おくお掃く山あとのさ葉小 加賀 小春

側傳了被乃たおた儀葉小 藤羅

吾うくも掃してをぬみ葉小 岐阜 素秋

石物くつあこは梅おしき葉 玄宗

梅乃花 鳴歩

越人

落梧

一髪

冬松

蕉笠

綱代民部の息ノ巻

梅乃木又あまをちと木也梅花 芭蕉

若良 若風

去來

伊賀 一桐

伴馬 一笑

同 市柳

同 夢々

梅舌

野水


~~~~~  
塵文

~~~~~  
冬文

~~~~~  
芭蕉

~~~~~  
傘下

~~~~~  
路通

~~~~~  
荷今

尚座題

~~~~~  
舟泉

梅木

~~~~~  
傘下

椿

~~~~~  
荷今

同

~~~~~  
ト枝

春雨

~~~~~  
湍水



同

まの雨舟をよを降ること 氣彈

白尾鷹

まゆめさ乃鹿つまは白尾水 野水

蝶乃井又まきぬかむやトク風 奇生

立句よりあ草えこ法明金水 龜助土歳

すこ〜と親子摘きのぼくし 舟泉

すあ〜と摘やしますや土羊 其角

す〜とあひ子のまかり土羊 蕉

土橋や〜と〜と〜と〜と 塩車

川舟や〜と〜と〜と〜と 冬文

は〜と〜と〜と〜と 音江

蘭亭乃至人池

鶴をよをさ〜と

そ〜と〜と〜と

池〜と〜と〜と 倭名書習ふ柳浪 素堂



風の吹方後よりやあきし

野水

何事も形とるしり折し

越人

さし柳きくまをたかりし

一葉

尺もくもやもく柳し

小春

すくぬく柳き風よこむ

一葉

いさつさく笑をさむる柳し

昌瑩

さく流も髪のゆのまゆ柳し

杏雨

さくさく柳まけりし柳し

此稿

ゆきゆき梅く半のさきむく柳し 杏雨

吹風く層こころはあきし 松芳

うき梅の地はらわのなるれ柳し 接遊

いさくし野鍛治はるぬ柳し 荷守

蝙蝠くまゆ月乃柳し 全

青柳よのこ柳くさる車し 素秋

川いさく後へさる柳し 鷗歩

菊乃名とさく流も種も柳し 生村



仲春

麦の穂に若菜の芽をしのぐ山嵐 不悔

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 長虹

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 傘下

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 清洞

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 去來

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 昌碧

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 越人

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 笑艸

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 除風

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 一橋

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 冬松

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 一髪

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 野水

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 除風

若菜の芽をしのぐ若菜の芽をしのぐ 一雪



りくく備繩解くやる雅もや 益車

ふげつて高の尸あはる陸う那 凶崎 宗鑑

あささつとあひま娘がさう肌 落梧

あさつとあひまむししけうとあさ 越人

ついでと骨ねのなごうや 去來

花入とさけしあはく魅の肌 落梧

不圖と死て後ふ花をな桂下 洋嶋 松下

ゆふやまの角廻又いさ梅の那 一井

さう梅も見乃見おは多ひし 折

梅桐の扱ふにさあつてさる胡蝶 治 梅餅

かやうお中をさるあはささる肌 炊玉

かゆさやまのあはささる胡蝶 百歳

善草

何れもあつとあつとあつとあつと 忠知

あつとあつとあつとあつとあつと 荷今

あつとあつとあつとあつとあつと 野水



鳥をさうりては乃とす洞の草を 舟泉

草刈て草選おす三星一那 鴉歩

ひ蝶れと筒を 燭遊

麦畑乃人えはまもの場う那 杜園

まけ山や殿の月おす所 大坂 戎之

ほろくくと山吹もさう瀧乃存 芭蕉

松明くや乃吹くすし東のい海 野水

山吹とくまのまきやあ 卜枝

いさくや山吹のぬくゆへ那 襟雪 岐阜

いさばさくや乃ぬきさくいさく 同 蓬雨

あそふまねくまきぬ燕うな 去來

さく食の鼻お土ぬくむす燕う 俊似

いさくまといさくまの燕う肌 長之

焚乃鼻は眼乃すくまの那 長虹

焚昏くたてぬすゆへ燕う 崩彈

友減て写さういさくあ乃唇 且葉



角落もくやまくとくえゆ小藤か 蕉堂

あらし清くも霧くふ浦の塔下は 越人

ねもと子も同じ 飲もゆ花の所 傘下

人よあつし舟と陸との塔下は 友重 <sup>三編</sup>

あまゆりも咲くあま躑躅の所 荷今

朧夜にあくくくさけさ藤のむ 兼正

篝火又夏のさくひね地物舟の那 龜洞

永き日や鐘響ぬとく地物し 卜枝

永き日や油志を木乃とくはさる 野水

り春みあもて塔下は地物引り 同



曠野集卷之三

初復

三返もかへれ白きも物も終りぬ

路通

更衣襟もたれしもやたれとまよ

傘下

とるもへ刀もさしとるもさし

<sup>釋</sup> 扇彈

肖柏老人乃をちたまひあはし心せりか  
まきとりのまきむけみ文鱗うらみ  
せて空の鳥越人うたむるもは  
あはれは文鱗よりつとる

幾も焼くもあはれしもさし

荷今



山行

かろくまてんせいふんせうたけいし  
芭蕉

いちふくきせうしんせうしんせう  
一井

傍み木乃ふんせうしんせう  
越人

切ふらつらふらふらとけを極す  
不交

ふらふらふらふらふらふらふらふら  
藤蘿

らまふれくまの木くみあふふ  
壺洞

むらくふらふらふらふらふらふら  
竹洞

ゆありふらふらふらふらふらふら  
鈍可

まげらや下らふらの櫻卯木  
夢々

上ヶ土ふらふらふらふらふら  
玄寮

枯色きまふらふらふらふら  
生林

まがらふらふらふらふらふら  
不知

むらふらふらふらふらふら  
鈍可

ふらふらふらふらふらふら  
嵐蘭

鳥飛てあふれふらふら  
落梧



〜〜教てあゝ空をばえり夕岐阜 李批

大粒ふ雨くこもえ〜 友子姑也 東巡

あやうしく見お拾ひぬ友子の也 吉次

涼川の居て

菴のあまふ〜〜くなれぬは山嵐雪

きり〜と乃とまればほえすかつ野水

仲夏

あやみろるも〜〜と〜〜と元楠

櫻井

川多の馬をよまはは〜〜の風 一髪

窓〜〜障子よのあゝ螢は 不交

周兒と〜〜と人呼雲の形 風笛

る細く越え我ぬ火の常の風 青江

あやみろるも〜〜と〜〜の那 合帖

〜〜か〜の袖〜〜と出はあ〜〜と ト枝

あ波て濡るも油〜〜とほ〜〜と 鷗步

〜〜と〜〜と葎室〜〜と〜〜と



らららのやしのうへもあめたおぼろが 秋芳

故のむゆき梅乃一本とも白雲のかり 小春

うやそ火よ夜をせぬくあやとやを 杏雨

るのしく紙傘乃らるるよ 三水

蚊乃瘦て鎧みうへよさやりや 一笑

屋みゆかやのほをるは 胡及

増引るる深のむきやむ異らとこの肌 兎竹

足伸へく娘百合竹おらすをぬか 此橘

竹乃子よ行燈をけてまさりも 長虹

算乃時をとるる 去來

岡おゆいさくくづむあをい水鶏が 野水

五月雨よ柳よも心行、那 一龍

この比を小粒ふなりぬ五月雨 尚白

みころ雨を傘よまをのこを雨りか 龜洞

波阜のうへ

おのころうへしとこを粉糰が 貞室



ねたー取まて

おとーろろーわろーかひ

き  
物舟

芭蕉

おさく

物のはろふ舞の舟や憐れや

荷兮

同

あゝは靴も写らん物舟

越人

是ふひ乃教もかまぬ物舟

大律  
淳兒

曲は又舞のええぬうらわゆるな

梅餅

鴨舟鼻のええころりあゝかかれを

路通

松笠は緑をええる夏野

ト枝

虹乃根をかく次野中乃標

鈍可

菫花は花や泥をええ雨

同

桐子や藤袴書人をええ

越人

冷ー也灯のこぼれ夏乃あこ

藤羅

夏花あやころり火は簾えい

且共

菴乃あこ



すひつゝさこちへ〜 隻石崖儀 其角

夕やや秋きこひゆ〜 舟瓢の肌 芭蕉

ゆふはの志ほもさ人乃志〜 野水

夕息き改乃留ほ〜 の〜 借雪

山ゆ来て夕やみ〜 法旨 市柳

是き魚ちゆゆ〜 似〜 長虹

暮夏

楠毛勃くやう〜 蟬〜 昌碧

雲北半 膝うけにた〜 野水

夕ちよ〜 傘ぬ〜 傘下

あ〜〜 板もや〜 法旨 去來

涼〜〜 白雨あ〜〜 入日影 去來

簾〜〜 涼〜〜 荷手

も〜〜 庭枯砂あ〜〜 同

ねも〜 ずの人〜 鳴海 如風

花石乃石露や草枯下涼み 律旨 俊似

うた 三



涼しきや樓乃下ゆくもの音 全

柀燈のともやうゆりし涼し舟 卜枝

すくすくやわきやうたなむ川 未學

吹ちてくみれくたく蓮々那 岐阜 秀正

蓮みじかやうやうきやう 松坂 晨胤

笠をよみてみぬく蓮々 古梵

河骨くもの力けりあゆみ 美水

とくくとととと松の古樹 長虹

すくすくやう 俊似

蓮あゆみ待き 文瀾

引きて馬にのち 濠月

かこひく 尚白

虫ほ 一髪

麻の 卜枝

約 李晨

約 越人



綿乃心き海く蘭く何く乳 素堂

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

曠野集卷之四

*Handwritten cursive text*

初秋

*Handwritten cursive text*

ちのちや麻川あとの秋は風 越人

梧乃我やせうのく火の風 圓解

松嶋雲々君のちもろく

一葉ふあきあけしはまをりりし 仙化

るひのちもや秋のたぐさ 方生

男くさ花羽織は星はる向ふ 杏雨







ひよろしと物あたらぬ花 芭蕉

棚作と免さひし花 蒲萄汁 作者 不知

草あらしかぬもの花 任口 伏見

もくもくしる花 荷今

仍人やあらしむる花 胡及

宗祇法師のこと案に

あやかしむる花 素堂

あらしむる花 俊似

素堂の

あやかしむる花 越人

一本乃、芦のみ花 防川

松の木のあやかしむる花 舟泉

あやかしむる花 胡及

あやかしむる花 暁龍

関の素堂よあひし

あやかしむる花 其角



〜のよ〜

ふゆい〜してふゆい〜せ〜  
芭蕉

いそが〜廿野有秋之菊遠星  
一笑加賀

### 暮秋

あまの風く栴〜ら菊乃白〜  
巴丈

ま〜るれら〜あそくわ〜  
昌碧

山崎乃〜  
越人

しらや〜ぬ〜  
曉庵

荷さうの室へ孫ぬを所あそ外をせ  
と〜荷は〜土器出たれか所〜

か〜  
其角

〜  
同

〜  
永

か〜  
子周伊豫

淋〜  
其夕濃列



路生 加生

路通 荷今

天

同

共身

湖

湖

曠野集卷之五

初冬

湖春

尚白

湍水

荷今

荷今

荷今



人さほしむる目

とれちれ我しむる目

約の下の降のしすきしゆれ

はしすきしゆれ

こがしゆれ

つぢつて掃の勢しむる目

このしゆれ

枇杷乃花人のちしゆれ

糸乃むらものつるしゆれ

梨木能むらものつるしゆれ

蓑虫乃いつらるしゆれ

麦ちしゆれ

乃とらしゆれ

強女のしゆれ

石白乃破くおしゆれ

青くしゆれ

落格

落格

歎王

傘下

荷守

一髪

同

同

李晨

野水

昌碧

全

一井

落格

胡及

文鱗



けしきしき物観するも蕪る水 十枝  
 冬枯之風乃体之力を野に 洞雪  
 道徳をうめりてゆる枯る心 一髪  
 智を疾く石きけまつく加勢を 松芳  
 こかきく吹きけり層層 杏雨  
 雪も物れぬくひきり雪も 蕉笠

寒月

福もあきく度く月夜面白 野水

あさ清乃大根あけし月あや 俊似

仲冬

ねろしきく種きつるあなを教ふ 津寫 勝吉  
 志ら涼やつまつたきる雪あふ 津寫 皇治  
 搔くもる馬糞にやめるあなれ 林芥  
 柴おきくやほくくふるやむ雪散 杏雨  
 りきくひる雪をねろく雪をまぬらぬ 宗之



新井のやんらん乃宮みこなれり 柱園

舟棚乃葉花多きるる水乃部 勝吉

深き池水おのまきり 歌きり繁 俊似

つぎとてや川おろきりりる水 除凡

打木もく何おろきりりる水柱 夜舟

兼題 雪舟

峠とて雪舟系をうらま塩木 嵐彈

ぬいぐとて雪舟よあはるにんせ 荷今

あはれこめて雪舟よあはる 長虹

馬をさる雪舟引おろす 一井

雪舟引也休むとあはるまてる 龜洞

つぎとて雪舟おろく雪舟の 言帖

青海也羽白黒鴨赤 忠知

舟又とて雪舟あはる雪舟 龜洞

朝鮮をさる雪舟あはる人交友 村俊

井を堀りて雪舟あはる雪舟  
ねとこも雪舟裸をさる



汗ぬして谷と突こむ氷室の 冬松  
 海峯躡乃壺埋きこむ氷室の 利重  
 炭竈乃穴ぬきこむ壺の 龜洞  
 藤着の女はくちかむおぼろの 壺車  
 火の河へて渡りこむ壺の 一笑加賀  
 いらりり一庇起せばくちかむ 龜洞  
 冬松の壺はくちかむ壺の 芭蕉

歳暮

餅つおやゆもむねすほろの 李下  
 吾書つゝく免地ものまの 尚白  
 むら花の後をすくむくちかむ 野水  
 ももゆき櫓つゝく壺の 龜洞  
 煤もひ梅くちかむ壺の 一髪友

本曾の月こくちかむ壺の  
 として杯の宴もくちかむ壺の  
 壺の壺もくちかむ壺の  
 壺の壺もくちかむ壺の



さーのく純粋な實のころが 荷今

門松とくまの路一存ひ 内習

田沼く胤進ふのまき 兔洞

敷きつる花はるのまき 鹿

まきつる花はるのまき 鹿

まきつる花はるのまき 鹿

まきつる花はるのまき 鹿

まきつる花はるのまき 鹿



